

II プランが目指すもの

育てたい子どもの姿

豊かに遊び、
ともに生きていることに
喜びを感じる子ども

乳幼児期に育みたい資質・能力

知識及び技能の基礎

思考力、判断力、表現力等の基礎

学びに向かう力、人間性等

※1

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）

※2

(1) 健康な心と体

園所の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園所内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

育てるための重要な視点

【幼児期】
5つの領域

「健康」

「人間関係」

「環境」

「言葉」

「表現」

【乳児期】
3つの視点

- ・「健やかに伸び伸びと育つ」
- ・「身近な人と気持ちが通じ合う」
- ・「身近なものとの関わり感性が育つ」

※4

環境を通して行う教育（保育）

※3

子どもの「生きる力」の基礎となるものであり、幼稚園教育要領等において次の3つの柱で示されています。育てたい子どもの姿に向かうには、姿を育てるための重要な視点に基づき、子どもの発達の実情や幼児の興味や関心等を踏まえながら展開する活動全体によって、これらの資質・能力を身に付けていくことが大切です。

(1) 知識及び技能の基礎

豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりすること。

(2) 思考力、判断力、表現力等の基礎

気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりすること。

(3) 学びに向かう力、人間性等

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとすること。

★例えば…友達と一緒に泥だんごを作っている場面を考えてみましょう

知 識 → 「泥だんごをつくるのに適した土」

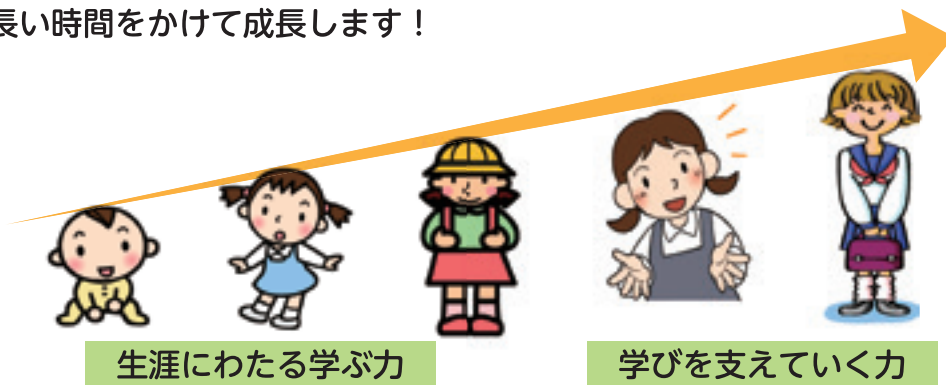
思考力 → 「土に少し水を混ぜると固まりやすい」

意 欲 → 「固い泥だんごをつくりたい」

心 情 → 「友達と一緒に泥だんごをつくっていて楽しい」

◎ この3つの資質・能力は・・・

誕生から18歳までの教育の中で一貫して育まれていくもの
長い時間をかけて成長します！



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）

とは… ※2

幼児期に育みたい資質・能力が育まれている子どもの具体的な姿であり、特に5歳児後半に見られるようになる姿です。

- ◎ 子どもの発達や学びの個人差に留意して、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を具体的にイメージして日々の保育をしていきましょう！
- ◎ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、到達目標ではありません。さらに、個別に取り出されて指導されるものでもありません。
- ◎ 小学校の教師と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有し、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図っていきましょう！